

調査結果から

【成果と課題】

○全国学力・学習状況調査結果

＜国語＞

平均正答率が全国の58.1%に対し54%とし、令和5年度の対全国比87%から93%と改善されている。内容としては「話すこと、聞くこと」領域が－9.4ポイントから－4.0ポイント。「書くこと」は－6.6ポイントから－5.6ポイント。「読むこと」は－11.4ポイントから－5.3ポイントとなっている。依然として全国を下回る結果ではあるが、改善がみられている。また、平均無解答率は令和5年度が9.8%（全国は4.6%）から4.5%（全国は3.9%）とし、取り組みに対する意欲も改善している。

＜数学＞

平均正答率が全国の52.5%に対し52%とし、令和5年度の対全国比80%から99%と大きく改善されている。内容としては全国と比較して、「数と式」領域において、－7.9ポイントから－2.0ポイントと改善があった。また、「図形」領域が－8.2ポイントから、＋0.1ポイントと全国を上回った。そして「関数」領域も－10.3ポイントから－0.9ポイント、「データの活用」領域も－15.3ポイントから－0.2ポイントと大きく改善している。また、平均無解答率は令和5年度が18.3%（全国は9.6%）から13.3%（全国は11.3%）とし、取り組みに対する意欲も改善している。

【今後に向けて】

依然として、全ての教科において、全体的に基礎的な学力が定着していないが、その部分を改善するために、生徒の学習状況に応じたプリントを作成し、添削と助言を行っている。また、デジタルドリルやアプリを活用して興味関心を引くような工夫をし、その学習を家庭学習にもつなげる事で、基礎学習を積み重ねることで改善を目標としている。授業外においては放課後学習やテスト前学習、長期休業期間学習を継続して活用していく。